



「アジアの子どものために」 つながる、そして広がる支援



写真提供: MIAA 提供



MIAA 会長・鈴木信さん



カトマンドゥ オブ スクンダ代表・ウッタムさん



記念講演の様子



参加者からの寄付の様子



ボランティアによる料理が並んだ交流会

貧困や教育の課題を抱えたネパールのカガチ村。人も支援も入りにくい山岳地帯にあるこの村を、NPO法人宮城国際支援の会(MIAA)は2004年の設立当初から支援を続けています。学習の機会が与えられない、早婚による妊娠・出産で命を落とす子どもがいる。そんな村の子どもたちの環境を整えるため、学校や診療所の建設・運営支援をはじめました。活動を応援したいという他団体の協力や活動へ共感した方からの寄付もあり、カガチ村だけでなく他の村でも学校を建設したり、定期的に孤児院への寄付なども続けています。

2024年5月に行われた設立20周年記念事業では、ネパール支援の協力団体カトマンドゥ オブ スクンダのメンバー、MIAAの支援者など約40人の参加がありました。たがさぼで開催された記念講演では、ネパールの文化や現状報告と課題の共有、これまでの活動報告、そして意見交換などが行われました。「以前訪れた時に幼かった子が、教師になり結婚もしていました。継続した支援が未来を開くという体感をしました」といった話もあり、続けることが大きな力になることを知る場となりました。

これまで活動を続けているのは、現地の協力者から支援を必要としている情報が入り、放っておくことができないからと会長の鈴木さんは話します。支援者・協力団体への丁寧な活動報告と交流で、「アジアの子どもたちの笑顔のために」という想いを共有し、支援の輪を広げていきます。

イベント情報 みやぎUマルシェ

宮城国際支援の会が実行委員として開催する、「みやぎUマルシェ」。フェアトレード商品などを販売し一部売上を寄付につなげています。

次回開催情報など詳細はこちら



ホームページ



Instagram

NPO法人宮城国際支援の会

七ヶ浜事務所

〒985-0824

宮城県宮城郡七ヶ浜町境山 2-11-20

仙台事務所

〒984-0047

宮城県仙台市若林区木ノ下 2-11-13-3



ホームページ



子どもたちが ほっとできる場所を目指して



毎週月曜日、塩竈市の清水沢東住宅集会所に学校帰りの子どもたちが続々と集まってきます。
学校でも家庭でもない「第3の居場所」の運営に込められた想いとは…

子どもたちの心のよりどころのために

「清水沢東こどもカフェ」は、子どもたちが遊んだり勉強をしたり、安心して楽しく過ごすことができる居場所として、ボランティアサークル「えぜるプロジェクト」が2018年1月から行っている取り組みです。

えぜるプロジェクトは、東日本大震災後、復興支援活動として仮設住宅の集会所での子どもや高齢者の居場所づくりに力を注いでいました。災害公営住宅が完成し、仮設住宅での支援が終了したあとも、ポツンと1人である子どもを見かけることが多く、子どもたちの居場所の必要性を感じたという当時の代表の山田さん。「好きな時に来て、好きな時に帰る。子どもがほっとできる場所、心が軽くなる場所をつくりたい」。清水沢東こどもカフェにはそんな想いが込められています。

協力者を募り、賛同した主婦仲間が常時6人ほどスタッフとして参加。「子どもが好きだし、子どもたちの役に立てるなら」とみなさん声をそろえます。運営資金は、当初は塩竈市や東日本大震災こども未来基金の助成金、現在は塩竈市共同募金や塩竈・仙台の企業からの支援金。地域のパチンコ店などからお菓子や食料品の寄付もあります。このように、たくさんの協力を得て子どもたちが安心して過ごせる場所を提供しています。

子どもたちの成長を見守る場に

集まっているのは、月見ヶ丘小学校区、玉川中学校区などの幼児から中学校3年生までの子どもたち。何かあった時のために、保護者名や連絡先を記入した上での登録制にしており、今年度は85人ほどが登録しています。毎回40人近くが自由に出入りして、卓球をしたり、工作をしたり、おやつを食べたりと、思い思いの時間を過ごします。「それぞれ自分なりに考えて行動している。その姿を見るのが幸せ」と目を細める現在の代表の扇さん。「学校でも家庭でもない場所で、褒められたり、時には叱られたりすることも必要。そうやって心を育てて、子どもたちの幸せにつなげたい」と話します。

「1年生の子が宿題をやっていた時、勉強に遅れがあると感じた上級生が自主的に教えていた。普段はやんちゃな子ども、きちんと年下の子のことを気にかけてくれるようになった」と、子どもたちの成長が実感できるエピソードも。未来を担う子どもたちの健やかな成長のためにつくられている第3の居場所。これからも、スタッフのみなさんの笑顔が子どもたちを優しく見守り続けます。

Facebook



↑学年を超えたコミュニケーションが生まれています。「きょうだいができるみたい」と話す子どもも。



↑卓球台やラケットなども寄贈されたものを使用しています。本格的な卓球を楽しむことができます。

「tag」とは

「tag」には、多賀城(tagajo)」の頭文字3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



ホームページ ブログ

アンケート

誌面づくりの参考にしたいと思っておりますので、ぜひご協力をお願いします！

- 自分たちの団体を取材してほしい
- こんな話題を取り上げてほしい
- ユニークな活動や地域のために頑張っている団体・人を知っている